

令和6年8月 岩手県教育委員会定例会 会議録

1 開催日時

開会 令和6年8月19日（月）午後1時30分

閉会 令和6年8月19日（月）午後2時30分

2 開催場所

県庁10階 教育委員室

3 教育長及び出席委員

佐藤 一 男 教育長

新妻 二 男 委員

畠山 将 樹 委員

宇部 容 子 委員

小野寺 明 美 委員

泉 悟 委員

4 説明等のため出席した職員

菊池教育局長兼首席服務管理監、坂本教育次長兼学校教育室長

武蔵教育企画室長、黒澤教育企画推進監兼服務管理監、伊藤学校教育企画監、西川高校改革課長、大森
参事兼教職員課総括課長兼服務管理監、中村保健体育課総括課長、小澤生涯学習文化財課総括課長

教育企画室：女鹿主任主査、安倍主事（記録）

5 会議の概要

第1 会期決定の件

本日一日と決定

第2 議案第19号 教育委員会の事務に係る点検及び評価に関し議決を求めることについて（教育企画室）
別添議案により説明

宇部委員：議案19号については異論ありません。そのうえで、2点意見を述べさせていただきます。

1点目は、政策項目13の体育の項目ですけれども、推進方策指標146、147の朝食を毎日食べる児童生徒の割合は、D指標になっているのですが、数としてはそれほど多くはないのかもしれませんが、特に中学生で朝食抜き、スクリーンタイムが増加している状況が気になります。体の健康や生活習慣というものは、大きな学力の基礎にもなりますので、ここについては、学校教育としてより良い習慣を発信するということはもとより、県の教育委員会でも、60（ロクマル）プラスプロジェクトを中心に展開しておりますが、これは、現場にとっても大変取り組みやすい内容で、家庭や地域等を巻き込んで実施していくのに大変良い内容だと思いますので、学校だけでなく、地域と家庭の協力をぜひ取れるような推進の仕方を進めていただければいいなと思っております。

2点目は、政策項目15のいじめ問題の適切な対応等の項目についてですが、学校行事の削減がもとになって、学校が楽しいと思う児童生徒の割合が減っているのではないかという特記記載事項がありました。学校行事は、望ましい人間関係の形成や、それから所属感、連帯感、公共の精神など、協力してよりよい学校生活を目指そうとする実践的な態度というような大きな役割を持つものです。コロナ後、時数の関係等もあるかと思うのですが、アンケート等を取るなど、児童生徒の希望や気持ちにも配慮するような選択をしながら、学校行事もどこかで取り入れて、満足させるような学校生活も必要かと考えております。やはり自分の満足感がなければ、他への思いやりというのなかなか難しいのではないかと感じており、現場のほうでも、そうした配慮も必要かと思っておりますので、県教育委員会からのご指導の方、よろしくお願いいたします。

小野寺委員：質問です。資料の21ページ、指標の34、35の将来の夢や目標を持っている児童生徒

の割合で中学生はD評価になっています。大事な指標かと思いますが、中学生ぐらいだと、将来の夢や目標の捉え方というのを具体的にはっきりしたものと考えていて、回答を躊躇してしまったのではないかと想像しています。例えば、将来自分の得意な事を活かしたいとか、人のためになる事をしたいとか、そういう質問もあると、また違ってくるのではないかと思います。また、D評価の捉え方というのをどのように見ているか、教えてください。

伊藤学校教育企画監：御指摘ありがとうございます。まさにアンケートをどういった聞き方をするかというのは非常に重要だと思っており、委員ご指摘のような質問の仕方をしていかなければいけないと思います。次のビジョンを策定する中で、どういった質問で成果を測っていくのか、どう聞けばよりよく測れるかという観点で検討して参りたいと考えております。

黒澤教育企画推進監兼服務管理監：35番の幸福関連指標がD評価だったという部分でございますが、知事部局における評価委員会の方でも話題になりまして、中学校に上がることにより、様々な世界や関係者との繋がりなども広がるどころと、それから、スマホやそういった形でのネットワーク、インターネットで様々な情報を入手できる状況になる事によって、その先々のことが、もうどんどん分かってしまうことで、目標や将来の夢が持ちづらくなってしまおうという傾向もあるのではないかという話が出ていたところでございまして、確かにそういう部分もあるのかと捉えているところでございます。

小野寺委員：なかなか目標を持ちづらいというのは、この時代ですから、わからなくもないのですが、身近にいる大人の姿を見せることが一番良いかと思いますので、大人が生きがいを持って生きていく姿をまず見せなければならぬのかなと思いました。

畠山委員：私も案に対して異存ございません。教育の取組、そして成果を数値で測るというのはなかなか難しいと思われる中で、丁寧に分析していただいたと思っております。小野寺委員の御指摘いただいた項目や、その他の項目も、数値で測るのでDになってしまっていますが、細かい数値の動きを見ると、Dだから悪いということではないのだろうなというのは、いつも感じるところでございますので、どうしてもDが目立ってしまいますけれども、今お答えいただいたような分析、様々な取組をしていると思います。Dだから悪い、逆に、Aだから良いというものでもないところもあると思いますので、積極的にこの分析を活かして今後の教育行政に活かしていただければと思います。

新妻委員：政策項目No12ですが、人間性と社会性を育みます、という箇所、D評価のところ、文化芸術への接触がちょっと物足りなくなっているということですが、数か所で聞いた話なのですが、小学校等の統廃合が進んでいて、それぞれの小学校ごとに、総合的な学習や色々な時間を使いながら、郷土芸能の伝承や、あるいは郷土芸能を見つけるための学習をするというようなことができていたのが、統廃合ということになると、それぞれの学校が行っていたものを、共通で全部カリキュラムや活動に組み込んで行うことが容易ではないということで、それぞれの学校である程度対応できていたものが、統合後の学校で対応しきれなくなって、頑張っている地域もあるようですが、地域的にどうするのかということで苦慮しており、そうしたことが影響しているかもしれないと考えています。これは、県教育委員会がどうのこうのというレベルではなく、市町村の義務教育の学校は、どうしてもそういう傾向は避けられない。学校でやろうとしているけれど、簡単には対応しきれない。今言ったように、学校だけで複数校分をまとめてやりますというわけにはちょっといかないので、何か工夫を示していくとか、あるいは今後の課題として考えていくことがあっても良いのではというのが1点です。

それから、政策項目No13の体育のところ、朝食の問題があったのですが、子ども食堂をやっている方々に聞くと、休みの日や通常の平日の昼や夜など、日常的に子ども食堂が対応している部分もあるのですが、残念ながら子ども食堂でも、朝食対応は実は難しいわけです。アメリカの州などでは、学校が集会室等を使って簡単な朝食、日本でいえば軽食的なものを提供して、安心して学校に来ることができるというスタイルを作って、教育活動や子供たちの学校生活も安定

し、学力も少し効果が上がっているという報告などがあります。ですので、学校が対応してそういうことができないのか。学校の施設でなく、学校が周辺施設を使ってでも、もちろん構わないと思いますが、そうすると、地域の皆さんの御協力とかいろんな連携をしないと難しいだろうなと思いつつ、ただ、世界的に見るとそういう例もないわけではない。各家庭で頑張ってくださいという激励や支援もありますが、ただ実際、今も朝食を意図的に取らない場合はいいのですが、取りたいけど取れないという子供たちが存在していることは間違いないと思うので、今話題のコミュニティスクールや、あるいは協働活動など、色々地域との連携があって、ケースによっては、子ども食堂に関わっている人達も含めて、地域による前向きな対応が可能なのところもあるのかなと思ったりもします。どこかで、モデルやいわゆる先進事例などがつくれるのであれば、良いかなという気がします。

それから、今話題にしていた中学生の将来の夢についてですが、特記事項のところとの関連でいうと、キャリア支援教育との関係で、キャリア支援教育はあくまで職業選択と結びついているのか、あるいはもっと大きい導き方の問題、目標を持つ事などに関わっている面も多々あると思うのですが、それとの関連で、どうこれを見たらよいのかお伺いしたいです。また、せっかく今キャリア支援教育を充実させようと頑張っている最中ですので、それとの関連性も触れていただければ良いのかなというのがひとつ思います。

それからもう1点、中学生は揺れる時期ですので、見えないことが見えてくる部分があります。小学生の時の大谷になりたいという夢も、中学生になれば、そうではなくなるというのは、ごく普通のことです。かつて、イチローになりたいといった夢は、中学生になると半減するということが証明されたこともあるようです。具体性のある目標を持ちたくなる年頃ですが、小野寺委員の言うように、大人が自信をもって生きていない、将来の展望がなかなか開けていないということは、大人だけではなく子供も感じるでしょうし、また、抽象的ではない具体性を持った目標を掲げようとする、やはりどうしても揺れてしまうというのは、別に不思議なことではないと思いますので、数値的には確かに小学生から比べると中学生が一見下がったかのように見えますが、それはある意味、中学生の思春期の特徴を反映しているとも言えますし、決してマイナス的な評価だけで済ませられる問題ではなく、成長過程にある特有の現象として、あってもおかしくないものとして捉えておく必要もあるのではないかと思います。数値的にはちょっと下がるのですが、中学生の発達に合わせて考えたら、大問題というようなレベルではないのではないかと思います。

伊藤学校教育企画監：御指摘ありがとうございます。委員御指摘の通り、やはり難しい問題であろうかと思いますが、中学校でのキャリア教育を推進しているところですので、さきほど小野寺委員がおっしゃったとおり、段階に応じて、夢が小学生のときは漠然としていて、高校生になったらある程度具体的に持って、中学生は、その真ん中あたりというところもあると思いますので、そうした発達段階に応じたキャリア教育を少し考えていけるといいかなと思います。

原案どおり決定

第3 議案第20号 県立学校の設置及び廃止に関し議決を求めることについて（学校教育室） 別添議案により説明

新妻委員：将来的に廃止される学校は卒業はまだ先なので、例えば、南昌みらい高校の体育科、久慈翔北高校の電子機械科、建設環境科は、当面残らざるを得ない。この子供達の場合は、例えば、久慈工業高校に入学した場合でも、卒業時の名称は久慈翔北高校というかたちになるのですね。

西川高校改革課長：在学証明書や卒業証明書等は統合後の校名になります。

新妻委員：大げさに考える必要はないかと思いますが、かつて大学が法人化された際に、入学したときは国立岩手大学で、卒業した時は国立大学法人岩手大学卒業となり、学生の関与もないのに、なぜ入る学校と出る学校が違うのかというような話題が出たことがありました。今回も入学時の学校の名称と卒業時の学校の名称が結果的に違うことになりますので、子供達や保護者に十分に配慮し、御理解いただくようにしていただければと思います。

原案どおり決定

議案第 21 号については、非公開とする議決がなされた。

第 4 議案第 21 号 職員の懲戒処分に関し議決を求めることについて（服務管理監）
別添議案により説明

〔戒告 担当業務の不適正処理 50 歳 男性 事務職 事務局〕

原案どおり決定

会議結果の公表は、教育長に一任することとして議決された。